

- 1 題材名 センリつのとくちょうを感じ取ろう（6時間）
 教材名 表現（歌唱）「とどけようこのゆめを」
 鑑賞 「メヌエット」（作曲者 ベートーベン）
 表現（歌唱）「ふじ山」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現 (1) 歌唱 ア、イ、ウ(イ)

B鑑賞 (1) ア、イ

〔共通事項〕 (1) ア 音楽を特徴付けている要素：リズム、旋律、強弱、フレーズ
 音楽の仕組み：反復
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律

(1) 題材観

本題材では、音楽を形づくっている要素の一つである旋律に着目し、曲想及びその変化が感じられる根拠を考えながら聴き深めたり、旋律の特徴を手掛かりに曲想を捉えて表現に生かしたりする力を身に付けさせることをねらいとしている。

音楽に合わせた体の動きや図形楽譜などを手掛かりにして、旋律の音の上がり下がりやアーティキュレーション、リズムが生み出す旋律の特徴の違いを聴き取り、それを踏まえて曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を生かして表現したりすることができるように学習を進めていく。音楽を形づくっている要素と曲想を関連付けることで、より曲全体を味わって聴くことができる楽しさや、根拠をもって表現を工夫する面白さを感じ取れるようにしたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

低学年の「ようすをおもいうかべよう」の学習が、本題材である「センリつのとくちょうを感じ取ろう」の学習に発展し、高学年や中学校では「曲想の変化」に着目する題材につながっていく。本題材は初めて旋律にスポットを当てて学習する3年生にとって、その特徴を明確に捉えやすい教材曲で構成されている。

第1次では「とどけようこのゆめを」を歌とリコーダーを重ねて演奏する。この曲は前半が跳躍進行で弾む感じ、後半は順次進行でなめらかな感じと対比しやすい。図形楽譜をなぞったり、歌ったりしてそれぞれの旋律の特徴を捉え、旋律の特徴に合う歌い方を工夫していく。また、後半に加わるリコーダーの副次的な旋律に親しむ。

第2次では「メヌエット」を鑑賞する。この曲はバイオリンの演奏する主な旋律が聴き取りやすい。アはレガートの優美な旋律で順次進行が中心、イはスタッカートでリズムカルといった跳躍進行が中心の旋律で構成されている。「とどけようこのゆめを」と同じように、2つの旋律の特徴の違いに気付きやすい楽曲である。この曲で聴き取らせたい「旋律の特徴の違い」は次の3つである。1つ目は音の上がり下がりが大きい小さいか（跳躍進行か順次進行か）、2つ目は音のつながり方が切れているかつながっているか（スタッカートかレガートか）、3つ目はリズムが細かい音か伸びているか（音価の短い音が多いか長い音が多いか）である。そこで、まず体を動かす活動を通して旋律の特徴を感覚的に捉え、次に図形楽譜で視覚的にも捉えさせる。さらに思考ツールを使って聴き取ったことと感じ取ったことを言葉に表出し、これらを結び付けて鑑賞することで曲全体を味わって聴くことにつなげていく。また常時活動で対比的な旋律を聴き比べる活動を積み重ねていくことで、旋律の特徴をより明確に捉えられるようにしていく。

第3次では、表現と鑑賞で学習した旋律の特徴に着目し、再び「ふじ山」で歌唱に取り組む。「ふじ山」は旋律の音の上がり下がりを手掛かりにすることで、曲の盛り上がり（曲の山）を捉えやすい。旋律の特徴などを根拠に曲想を捉え、さらにその曲想に合った表現を工夫して歌えるようにしていく。

<研究の視点との関わり>

【視点1】「共通事項」を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

①学び方の共有

○「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」を区別して捉え、学習を積み重ねる思考ツールの活用

「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を意識したりそれらを結び付けて考えたりすることへの習熟が不十分なため、思考ツール（くらげチャート）を活用する（ワークシート参照）。題材を通した常時活動では、対比的な旋律を聴き比べる際に、児童から出た言葉を教師が区別してくらげチャートに記入していく。「感じ取ったこと」はくらげの頭に、「聴き取ったこと」はくらげの足に書くというルールを定めることで、視覚的に聴き取ったことと感じ取ったことの違いがわかりやすくなる。この活動の積み重ねにより、今まで何となく捉えていた「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」の区別ができ、音楽的な見方・考え方を働かせて旋律の特徴を捉えるための支援となるであろう。第1次からつながる対比的な旋律の特徴を比較する学習と、常時活動による音楽的な見方・考え方を働かせて旋律の特徴を考える学習の積み重ねによって、「メヌエット」の鑑賞や「ふじ山」の歌唱がより充実した学びの場となることをねらっている。児童が旋律の特徴を感じ取り、そのよさや美しさを味わって曲を聴いたり歌唱表現を工夫したりすることができれば、同じ見方・考え方を活用してその後も様々な曲と関わることができるようになるだろう。高学年や中学校では、より複雑でダイナミックな曲想の変化を捉える学習と続いていく。児童が音楽を形づくっている要素（聴き取ったこと）を手掛かりに自分の感性を豊かに働かせて音楽を楽しむことができるように、本題材ではその素地を養いたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

①音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

○「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」の関わりに気付く力を身に付けさせる常時活動

中学年では、低学年の学習とのつながりを考え、より明確に旋律の特徴を捉えられるようにする。そして、「聴き取ったこと」を確かな根拠として「感じ取ったこと」と結び付けられるようにする。それらを実現するための手立てとして、題材を通した常時活動を行う。導入時に跳躍進行と順次進行、スタッカートとレガートなどの対比的な旋律を聴き比べる活動をし、児童が旋律の特徴を明確に捉えることができるよう支援する。最初は体を動かす活動で特徴を捉えさせ、次のステップでは特徴を表す言葉を選択させ、最終的には児童自身の言葉で旋律の特徴を表現させることを目指す。教師は子供から出た意見を、常に「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」に分けてくらげチャートに板書していく。その際に、「感じ取ったこと」はくらげの頭に、「聴き取ったこと」はくらげの足に書くというルールについても指導する。この常時活動によって、児童は「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」の関わりについて意識を向けることができるようになり、旋律の特徴やその面白さを味わうことができると考える。常時活動におけるステップアップの積み重ねや共通事項を支えにした学びの積み重ねから、高学年・中学校へと学びをつなげていきたい。

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

○一斉、小グループ、個人の学習活動における場面設定の工夫

旋律の特徴を捉える学習は、3年生で初めて出てくる内容である。体を動かす活動などを通して、心を解放しながら「メヌエット」に十分親しませ、アとイの違いについて全体で意見を共有することで、多くの児童が旋律の特徴を捉えることができるであろう。その協働的な学びの時間が、旋律の特徴に意識を向けることへの支援となり、個人で考える際に自分の意見をもつことにつながると考える。さらに、個人で意見がもてない児童には、言葉を選択するワークシート（くらげの足ヒントカード・くらげの頭足ヒントカード）があることを伝え、必要に応じて選択できる場を設ける。

また、自信がもてずに全体では意見を発表することが難しい児童が一定数いる。より多様な意見を出させるために、全体共有の前に小グループで話し合いをして共有させ、その後に自身や参考になる友達の意見を発表させる。小グループで認められた経験は児童の自信となり、本時や今後の学習活動の際にも多様な意見を出せる雰囲気が醸成されていくであろう。

【視点3】評価の在り方

本時（第4時）では、児童自身が聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて考えながら、くらげチャートに記述している姿を目指したい。常時活動や「とどけようこのゆめを」の学習を生かして、音の上がり下がりやアーティキュレーション、リズムといった旋律の特徴を左右する要素を聴き取り、区別してくらげの足に記述することができるだろう。くらげの足に記述する聴き取ったことと、くらげの頭に記述する感じ取ったことを関わらせて考える。「ゆったりとして優しい感じがしたのは、音の上がり下がりが小さかったからだ」「伸びた音が多くてつながるように演奏していたからうっとりしたよ」などと気付くことができる。このように聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて考えながら、曲や演奏のよさ、面白さを見出して聴いている姿を見取っていききたい。

3 題材の目標

- 曲想及びその変化と、旋律やリズムなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 旋律、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。（思考力、判断力、表現力等）
- 旋律の特徴やリズムの違いと曲想の変化を味わいながら、鑑賞したり歌ったりする活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知曲想と旋律やリズムなどの音楽を形づくっている要素や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（歌唱）	①旋律、リズムとその変化を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌唱）	①旋律の特徴やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・鑑賞）
②知曲想及びその変化と旋律やリズムなどの音楽を形づくっている要素との関わりについて理解している。（鑑賞）	②旋律の特徴やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞）	
③技思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌唱）		

5 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）（本時4/6）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎旋律の特徴を感じ取りながら、歌ったり演奏したりする。				① 知 （観察・発言）		① （観察・発言）
第一次	第1時	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴き、体を動かす活動を通してそれぞれの特徴を捉える。 ○「とどけようこのゆめを」のAとイの旋律の特徴に気付く。 ・Aとイを歌ったり、図形楽譜をなぞったりして、旋律の特徴を捉える。 ○声や音の出し方に気を付けて、歌ったりリコーダーを演奏したりする。 ・音の上がり下がり等に気を付けながら歌う。 ・リコーダーの旋律を階名唱したり演奏したりする。 ☆〔旋律〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○図形楽譜を提示したり、楽譜の音符をなぞらせたりして、音高の上下を感じ取らせる。 ・旋律の音の上がり下がりに興味をもっている。 ○旋律の音の上がり下がりに合わせて手を上下させ、旋律の特徴を捉えられるよう補助する。 ・旋律の音の上がり下がりをつえながら歌ったり演奏したりしている。 【視点1】 【視点2】 【視点3】			
	第2時	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴き、体を動かす活動を通してそれぞれの旋律の特徴を捉える。 ○旋律の特徴に合う歌い方や演奏の仕方を考える。 ・それぞれのパートで旋律の特徴に合う演奏の仕方を考え、発表する。 ☆〔旋律〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○前時の学習を想起しながら演奏の仕方を考えるよう促す。 ・A、イの旋律の特徴に合った歌い方や演奏の仕方を考えている。 【視点1】 【視点2】 【視点3】			

◎旋律の特徴を聴き取り、曲想との関わりに気付く。						
第二次	第3時	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴き、それぞれの特徴をとらえた言葉を選択する。 ○「メヌエット」聴き、曲想を捉える。 ・全曲通して聴き、感想をもつ。 ○アとイの旋律を聴き比べ特徴を捉える。 ・アとイの部分に合わせて体を動かし、それぞれの旋律の特徴を捉える。 ○使われている楽器や作曲者について知る。 ☆〔旋律、リズム〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○初発の感想を自由に述べるよう促す。 ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 ○旋律の特徴を捉えた動きを取り上げ、なぜそのように動いたのか理由を考えさせる。 ・旋律の特徴について気付いている。 ○教科書の写真を活用して、理解を促す。 【視点1】 【視点2】 【視点3】	② [知] (観察・発言)		
	第4時 (本時)	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴き、それぞれの特徴を捉えた言葉を選択する。 ○アとイの旋律の特徴やリズムと、曲想との関わりに気付く。 ・アとイの旋律を聴き、その特徴や曲想を思考ツールにまとめる。 ○全曲を鑑賞し、聴き深める。 ・曲全体のよさや、聴き深められたことについてワークシートにまとめる。 ☆〔旋律、リズム〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○図形楽譜をなぞらせたり、思考ツールにまとめさせたりする。 ○意見を共有させる。 ・旋律やリズムの特徴と、曲想との関わりに気付いている。 ○全体に広めたい意見を紹介する。 ・曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いている。 【視点1】 【視点2】 【視点3】		② (ワークシート・発言)	
◎旋律の音の上がり下がりや歌詞の内容を手掛かりに、曲の山を生かして歌う。						
第三次	第5時	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴いて、それぞれの特徴を捉える。 ○「ふじ山」の歌詞の内容や旋律の音の上がり下がり捉える。 ・歌詞を音読したり、富士山の写真を見たりして、情景を思い浮かべながら歌う。 ・音符をなぞりながら歌い、音の上がり下がり捉える。 ☆〔旋律、強弱〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○富士山の写真や映像を見せ、イメージを膨らませることができるよう支援する。 ○音符をなぞらせたり、階名で歌わせたりして音高を捉えさせる。 ・情景を思い浮かべながら、旋律の上がり下がり捉えて歌っている。 【視点1】 【視点3】	① [知] (発言・観察)		
	第6時	○常時活動をする。 ・対比的な旋律を聴いて、それぞれの特徴を捉える。 ○曲の盛り上がりを生かした歌い方を工夫する。 ・曲の山について知る。 ・旋律の特徴を生かしながら、声の強さや出し方に気を付けて歌う。 ☆〔旋律、強弱〕	○旋律の特徴について、児童から出た意見を知覚と感受に分けて板書する。 ○曲の盛り上がりを生かした歌い方の工夫について、多様な意見が出るようグループで話し合わせる。 ・呼吸や発音、姿勢に気を付けながら、曲想に合った歌い方で歌っている。 【視点1】 【視点2】 【視点3】	③ [技] (聴取)		

6 本時の指導（4/6）

（1）本時の目標

「メヌエット」を聴き、2つの旋律の違いが生み出すよさや面白さを味わう。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動をする。 ・上がり下がりの大きい旋律と、上がり下がりの小さい旋律を聴き比べ、それぞれの旋律の特徴を捉える。	○「上がり下がりが大きい」「上がり下がりが小さい」などの2択から選ばせ、教師がくらげチャートに書き込む。 【視点1】②
2 本時の目標を知る。	せんりつのとくちょうに気を付けて「メヌエット」をきき、曲の感じを味わおう。
3 前時の振り返りをする。 ・「メヌエット」を全曲通して聴き、前時の学習を想起する。	
4 旋律の特徴を捉える。 ・アとイの図形楽譜を提示し、どちらがアでどちらがイか考える。 ・音楽に合わせて図形楽譜をなぞり、旋律の特徴を捉える。	図形楽譜と旋律が結びつかない児童には、教師が図形楽譜をなぞって気付けるよう支援する。 ○旋律の音の上がり下がり、つながり方、リズムの特徴に気付くことができるよう、その3点を発問の際に確認する。
5 アとイの旋律の特徴をワークシートにまとめる。 ・「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」をくらげチャートに記入する。	○音源を再生し、児童が音楽を聴きながら思考できるように支援する。 ○掲示物を参考にしながら、聴き取ったことと感じ取ったことを区別してくらげチャートに書き込むよう促す。
6 曲を聴いて「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を共有する。 ・小グループで共有した後、全体で共有する。 (児童の発言例) 「なめらかに音が動いて優しい踊りみたいな旋律と音が飛ぶ元気な踊りみたいな旋律があって面白い。」 「ジグザグが激しくて元気な感じの旋律と、ジグザグが小さくて優しい感じの旋律だった。」 「同じ曲なのに色々な感じ方があるなと思った。」	何を書けばよいのかわからない児童には、くらげの足ヒントカードやくらげの頭・足ヒントカードがあることを伝える。 【視点1】①【視点3】
	○自分の意見以外にも、参考になる友達の意見を紹介させる。 ○全体共有の際、「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」を区別して、くらげチャートに板書する。 ○必要に応じて該当部分の音源を流し、音で確かめさせる。 ・旋律の特徴やリズムと曲想との関わりに気付いている。 【視点2】②【視点3】

- 7 全曲通して「メヌエット」を鑑賞する。
- ・曲全体を味わって聴く。
 - ・曲全体を聴いた後、聴き深められたことや曲全体のよさについてワークシートにまとめる。

(児童の発言例)

「アとイの旋律が全然違うのに、同じ曲の中にあるのが、おもしろい曲だと思った。」

「ア、イときて、その後にまたアの旋律が戻ってくるところがよいと思った。」

☆〔旋律、リズム〕

○全体に広めたい意見を数名紹介する。

- ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしている。

◇旋律の特徴やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。

(思考・判断・表現)

〈 発言・ワークシート 〉